

●2010年4月23日、第8回注意研究会を開催しました(於:京都大学大学院人間・環境学研究科棟地下講義室 B23A)。話題提供:鯉田孝和先生(豊橋技術科学大学エレクトロニクス先端融合研究センター特任准教授)「色の認知とサル下側頭皮質ニューロン活動」。

●4月27日、2010年度第1回こころの未来研究センター定例研究会を開催しました。「こころ観の思想的・比較文化論的基礎研究」(鎌田東二教授)、「こころとモノをつなぐワザの研究」(大石高典研究員)。

●5月17日、第9回注意研究会を開催しました(於:京都大学稲盛財団記念館3階中会議室)。話題提供: Avi Sadeh先生 (Professor, Department of Psychology, Tel Aviv University Director, Adler Center for Research in Child Development and Psychopathology, Tel Aviv University, Israel)、“Sleep, Neurobehavioral Functioning and ADHD in Children.”

●5月25日、2010年度第2回こころの未来研究センター定例研究会を開催しました。「社会的ネットワークの機能と性質:『つなぐ』役割の検証」(内田由紀子助教)、「カウンセリング対話で何が起きているか——非言語行動の分析」(長岡千賀研究員)。

●5月27日、第10回注意研究会を開催しました(於:吉田南総合館東南棟1階101演習室)。話題提供者: Gianluisi Mongillo先生 (Rene Descartes University, Paris)、“Synaptic theory of working memory.”

●6月8日、こころの未来講演会を開催しました(於:京都大学稲盛財団記念館3階大会議室)。講師: John Wachtel先生(スタンフォード大学医学部婦人科医・教授)「医療のこころ構え——自発的改善の実現」。

●6月12日、ワークショップ「Psychological and Sociological Perspectives on Japanese Youth Issues: Views from Foreign Researchers in Japan」を、グローバルCOE「親密圏と公共圏の再

編成をめざすアジア拠点」とこころの未来研究センターの「青年期の社会的適応プロジェクト」の共催で開催しました(於:時計台会議室4)。詳細は本誌 p40～47。

●6月22日、第33回こころの未来セミナーを開催しました。講師: J.Baird Callicott先生(ノース・テキサス大学哲学科教授)「環境問題に関するアメリカの倫理・政治・法律——その成果と失敗」。

●6月24日、第1回人間・環境学研究科・こころの未来研究センター交流会を開催しました(於:人間・環境学研究科棟地下講義室 B23A)。吉川左紀子センター長、河合俊雄教授、鎌田東二教授からの研究報告が行われました。人間・環境学研究科からさまざまな領域の先生方にご参加いただき、「こころ」についてのディスカッションを通じた研究交流を行いました。

●6月25日、第11回注意研究会を開催しました(於:京都大学大学院人間・環境学研究科地下講義室 B23B)。話題提供:北岡明佳先生(立命館大学文学部人文学科心理学専攻・教授)「錯視と注意と脳」。

●7月9日、2010年度第1回こころの科学特別レクチャーを開催しました(於:稲盛財団記念館3階大会議室)。講師:村井俊哉先生(医学研究科精神医学)「社会の中での意思決定、その障害と治療について」。

●7月15日、第2回わく・湧く・ワークショップ「イメージワークとメディテーションのタベ」を開催しました(於:京都大学稲盛財団記念館3階中会議室)。

●8月1日、京都府・京都大学こころの未来研究センター共同企画、第7回こころの広場「聞くことの本質——プロカウンセラーの聞く技術」を開催しました(於:京都大学稲盛財団記念館3階大会議室)。第一部、講師:東山紘久先生(帝塚山学院大学専門職大学院教授・元京都大学副学長・臨床心理学)「聞くことの本質——プロカウンセラーの聞く技術」、第二部、座談・質疑

応答、司会進行:河合俊雄教授。

●8月15～16日、「慶應義塾大学グローバルCOE論理と感性の先端的教育研究拠点」との共催で、「負の感情」研究会を開催しました(於:京都大学稲盛財団記念館3階中会議室)。テーマ:「負の感情」とはなにか? ——「底つき感」の通文化比較とその手法としての映像。発表は宮坂敬造先生(慶應義塾大学)「底つき感と文化」、Karl Heider先生「ニューギニアおよびインドネシア先住民社会における負の感情と映像人類学」、大石高典研究員「感情の文化間比較への民族人類学・民族生物学的アプローチ:カメルーン東南部の焼畑農耕民社会と狩猟採集民社会の比較から」、鎌田東二教授「日本の精神文化史において仏教受容が負の感情に与えた影響」ほか。

●8月17日、第3回わく・湧く・ワークショップ「イメージワークとメディテーションのタベ」を開催しました(於:京都大学稲盛財団記念館3階中会議室)。

●8月19日、第1回「進化と文化とこころ」ワークショップを開催しました(於:京都大学稲盛財団記念館3階小会議室1)。話題提供:竹澤正哲先生(上智大学)「制度アプローチから考える文化の維持」、鳥山理恵先生(トロント大学)「文化伝達:模倣から社会学習まで」。

●9月6日、第1回「進化と文化とこころ」研究会を開催しました(於:京都大学稲盛財団記念館3階中会議室)。話題提供:森島陽介先生(Institute for Empirical Research in Economics, University of Zurich)「神経経済学から見た社会的選好の個人差とその神経基盤」。

●9月7日、第12回注意研究会を開催しました(於:京都大学大学院人間・環境学研究科地下講義室 B23A)。話題提供:楠真琴先生(Oxford University, Department of Experimental Psychology, Research Scientists)「連合学習課題遂行中のサル前頭野ニューロンの反応」。

編集後記

今号も読みごたえのある論考が集まりました。ご執筆の先生がたに心からお礼申し上げます。インタビューの前、西島先生を京大病院の待合室にお迎えに行きました。稲盛財団記念館に向かおうとタクシーを止めると、先生はさり気なくドアに手を添えて私を先に乗せてくださいました。レディーファーストが身に付いた、先生のやさしいしぐさと笑顔が、今も胸に残っています。(吉川)

この夏、京都の山でナラ枯れが大量に発生した。たびたび比叡山に登っているのでナラ枯れの状態を目撃するのはつらいものがある。山歩きを通して自然と人間との共生は生易しくないことを痛感している。さて今回、本号は、ナラ枯れとは反対に、豊かな果実を実らせている。原稿をお寄せくださった先生方に心よりお礼申し上げます。(鎌田)

いわゆる“ロストジェネレーション”に属する者にとって、今号の「日本の若者の問題」についての記事は他人事ではない。すでに「若者」などとは言っていない年齢となったわが世代の「未来」がどこに向かうのか。などとメタ視線で眺める余力もないまま、諸事に追われる内に「こころの未来」も5号発行となっていた月日の早さに驚かされる初秋の一日である。(平石)

西島先生のお話から、困難な状況にあっても、これまでの蓄積を生かしてのびやかに新しい創造へむかうところを教えていただきました。今号から編集のお手伝いをさせていただくことになりました。どうぞよろしく願いいたします。(森崎)

初めてお会いした西島安則先生は、懐が深く、熱い志をもった方で、そのお話にこちらの心がかき立てられる思いがしました。完成した本誌をお見せできなかったのが悔やまれます。西島先生弟の西島昭様、京都市産業技術研究所の橋田章三様、京都市立芸術大学美術学部の辰巳明久教授、同大学事務局の近藤恵様はじめ、お力添えをいただいた皆様に心より感謝申し上げます。(原)

本誌4号25頁、60頁のe-Leaningはe-Learning、36頁「社会契約論」(1962)は「社会契約論」(1762)の誤りでした。お詫びして訂正いたします。(編集委員会)

こころの未来
KOKORO RESEARCH CENTER
KYOTO UNIVERSITY

第5号

発行日……………2010年9月30日

発行……………京都大学こころの未来研究センター

〒606-8501

京都市左京区吉田下阿達町46 京都大学稲盛財団記念館内

電話 075-753-9670 FAX 075-753-9680

<http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/>

編集委員……………吉川左紀子+鎌田東二+平石界+森崎礼子

表紙写真……………大石高典 コスモスと蝶(京大大学院理学部植物園)

編集・制作……………編集工房レイヴン 原章

デザイン……………鷺草デザイン事務所 尾崎閑也

印刷……………株式会社NPCコーポレーション